

クラシック音楽は経済リスクに対する態度を緩和させて、年金の支払いを促進する効果はあるか？

— 個別的経済実験と集計データによる音楽の趣向とリスク回避度との相関分析 —

保原伸弘

東京福祉大学 社会福祉学部 (伊勢崎キャンパス)
〒372-0831 群馬県伊勢崎市山王町2020-1
(2017年6月8日受付、2017年9月14日受理)

抄録: 近視眼的思考ないしリスク愛好的な傾向が強く、将来に希望が持てない状況が主体内にも社会にも蔓延するのが日本の現状である。この傾向は年金不払いなどの社会的な問題も招くと考える。この傾向に対して、本研究ではアートによるリスク愛好的な傾向の鎮静化の可能性を考える。これを踏まえて、アートの種類にも注意して、アンケート上のリスク回避度と愛好する音楽の種類との相関を調べた結果、リスクを回避する主体とリスクを愛好する主体とで、愛好する音楽が異なることがわかり、クラシック音楽を愛好する主体はリスク回避的になることがわかった。また、都道府県別の集計データを用いた場合、年金の支払いが順調な都道府県と支払いが滞る都道府県では愛好するアートのジャンルや余暇の過ごし方に違いがあることがわかり、クラシック音楽を愛好する傾向の強い都道府県では年金の支払いが順調であることがわかった。(別刷請求先: 保原伸弘)

キーワード: リスク回避的、リスクプレミアム、年金滞納、行動経済学、アートが生む心理状態

緒言

現代日本社会が抱える問題として、社会における成員が将来に対して希望がもてないことが挙げられる。玄田(2001)によれば、全国の20代から50代を対象とするアンケート調査を行ったところ、3人に1人は「人生に希望がない」もしくは「人生に希望はあるが、実現しそうにない」と感じている。現代日本において、将来に対して希望を持っていない成員が多数存在するという問題があるといえる。このような将来に対して希望を持っていない状況が社会に蔓延すると、将来の利得から得られるだろう効用は、現在の利得から得られる効用に比べてあまり価値を持たなくなり、また、将来に対するリスクに関してあまり頓着しなくなるであろう。そして、このような成員の近視眼的な思考によって、社会全体としても長期的な動向の決定がとどこおり、経済的な停滞を招くこともある。

その顕著な例として年金の不払いの傾向の蔓延ということがあげられる。年金制度については、ライフステージが現役世代から高齢世代に進むにつれ、老後の所得獲得能力の低下や将来を見据えた備えなどについて増大するリスクを各成員間で分散させるために設けられると説明されることが多い。ここで、リスクに対し回避的な主体は、将来

に対するリスクに備え、厚生年金への加入等年金を増額した形で将来に備えるのに対して、リスクに関してあまり頓着しない主体(経済学的にはリスク愛好的な主体に相当すると考えてよいであろう)は基礎年金すら平気で不払いを続けると考えられる(駒村ら, 2000)。

このような利他的あるいはリスクを顧みない傾向に対し、それを緩和する手立てはないかであるが、一般的に人はアートに接すると気分が和らぐことが考えられる。指揮者の宇宿允人はテレビ番組で、音楽というのは和らげる効果があると述べている。また、Lindstrom (2005)は「クラシック音楽がさかんな地域は犯罪率が低下する」ことを示した。

アートへの傾倒によって現代日本のリスクが蔓延する傾向が緩和されるかもしれない。本研究は、アートの興隆がリスクに対する態度が変化する可能性を問うものである。

経済的意思決定において重要となるファクターとして、例えば「リスク回避」と「時間選好率」があげられる。伝統的なマクロ経済動学等では、通常の分析の単純化のためこれらを成員間での差異はなく一定と仮定して分析を進めるが、昨今の行動経済学では「リスク回避」と「時間選好率」が個人や状況によっても異なるのではないかという問題意識のもと、双曲線割引やプロスペクト論といった議論

も展開している。アンケートによる経済実験を通じて、個々人の「リスク回避」と「時間選好率」をダイレクトに測ろうという試みもあり、池田ら(2005,2006)のようにその形成要因を分析しようとする試みもある。また、土村・保原(2016)では、家計の出産の意思決定と時間選好率の間に有意な相関があることを示すことによって、主体の意思決定や行動の説明変数として「リスク回避」と「時間選好率」を用いる方向性も示した。それらの成果も生かし、本研究に直接かわるリスク回避度に関するテストについては、すでに定型としてほぼ決まっている池田ら(2006)における調査法を本研究では採用した。すなわち、一定の賞金と一定の当選確率をもった宝くじをアンケートの被検者に提示し、その購入の意思決定および購入希望価格を回答させ、各主体のリスク回避度を測った。

一方、星野(2015)にもみられるように、アートの嗜好というのは個々人によって異なり、個人がもつ心理的要因や属性によって、好むアートの種類に差が生じると考える。これは通常の直観に見合った議論で、本研究との関連でいえば、「アートはリスクを回避的にする」としても、リスクの緩和を考慮するにあたってはアートの種類にも留意しなくてはならないことになる。すなわち、リスクの軽減にふさわしいアートもあれば、逆にリスクを刺激してしまうものもあるのではないかと、ということである。本研究では、そのテーマであるアートとリスクに対する態度を考えるについて、さらにアートの種類やどの種類のアートが主体のリスクの軽減にふさわしいかについても考える。その上でアートのリスクを緩和する効果を考察した。

これらを踏まえて、本研究ではこのような経済的意思決定における重要な要素である個々人のリスク回避度と種類ごとのアートの嗜好の調査を行い、両者に相関があるか検証した。これは従来のアートの嗜好の違いを心理的要因から説明する議論をさらに拡大させて、直接、経済行動に関わる指標との関係を探るものである。

このような個々の主体の「リスク回避」の傾向やその変化は、その傾向が全体的に高まることにより実際の経済や社会にも影響を与えることがあろう。社会の成員間にリスク回避の傾向が弱まると、運転に対する不注意の高まりから交通事故件数も多くなるかもしれない。また、将来時点への嗜好が減少し社会に現在時点に主に注意が向く刹那主義の傾向が増加する結果、重大な犯罪が増加する傾向を生むかもしれない。あるいは将来時点の健康に対する事態に対する注意が甘くなり、現時点での快楽を優先させ、喫煙やアルコールに依存する率が上がるかもしれない。ここでは、個々人においてアートにふれることによって「リスク回避」の変更の可能性があるなら、地域における

アートの興隆によって地域の成員の「リスク回避」の変更を生む可能性があり、その結果、各地域に「リスク回避」に関わる経済や社会事象に変化がもたらされる場合もあると考えた。

このような問題意識のもと、本研究はさらに集計レベルを使って、各地域におけるアートの興隆と「リスク回避」の違いや変化に関わりを持つであろう経済や社会現象との関連も調べた。すなわち、本研究ではリスク回避の違いや変化に関わりを持つであろう経済や社会現象として、年金納付率を採用し、それぞれの地域で盛んなアートの差によって年金納付率(リスク回避に対する傾向)の違いが生じるか、についても考察した。以下、具体的な方法論を述べ、分析結果を踏まえての結論を述べる。

なお、本研究はアートの種類によりリスクの回避度が異なるという結果をもって間接的に、(何らかの)アートの興隆によってリスクの緩和の可能性を説くものである。しかし、アートの概念は多義的であり、状況に応じて、それが包摂する範囲は異なり、アートによってはリスク愛好的な傾向と対応するものもある。そのため、アートの種類によってリスクの緩和の相違を生むことおよび、その中でもリスクの緩和を強く促すもの(ここでは特にクラシック音楽)があることを確認し、間接的にアートの興隆によるリスクの緩和の可能性を調査する、という方法をとった。

また、アート自体の定義や概念規定は、それだけでも膨大な研究対象となるし、ここでの研究の主目的ではないため行わなかった。あえていうなら、Lévi-Strauss(1976)などの構造主義に代表される、表現者と表現物および鑑賞者の相互作用を通じて形成されるという、形成のプロセスにおいて鑑賞者を重視する立場に近いものとする。本研究の調査の対象が専ら鑑賞者側に向けられるためでもある。また、鑑賞者との相互作用を生むものであれば広くアートとして考えることにする。そのため、特に集計データの分析において、ポピュラー音楽等の分析も考えている。

個別データによる分析

まず、個別データを用いて、各主体がもつリスク回避の傾向と主体の持つアートの嗜好との関係をみた。家計における音楽の嗜好を生む要因を分析するために、アンケート調査を行った。2016年3月に、調査会社の(株)マクロミルが保有するパネルから抽出したサンプルを対象として、「音楽の嗜好に関する調査」を実施し、得られた個票データを分析した。本調査は、研究目的に合致するように調査票を作成して調査会社に依頼したものであり、その概要は(表1)のとおりである。調査地域はサンプル特性の違いを

表1. 調査(音楽の嗜好に関する調査)の概要

問題意識	日本社会におけるリスク愛好的な傾向を前にして、アートによってリスク愛好的な態度は軽減されるか？
分析方針	アートの種類によって、相対的にリスク回避的行動と対応するものを見出すことで、間接的にアートの興隆がリスクの緩和を生む可能性があることを考える。
アンケート調査(音楽の嗜好に関する調査)の概要	
調査対象	15歳以上64歳以下
調査地域	東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県居住者
調査方法	インターネットによる回答
サンプリング	調査委託会社の保有パネルにより抽出、上記調査対象に対して、年代別、男女別に等割合になるようにした
調査実施期間	2016年03月29日(火)～2016年03月31日(木)
有効回収数	有効回収数 310
調査主体	本研究実施者(保原伸弘)
調査受託機関	株式会社 マクロミル
調査内容	それぞれの主体に対して、音楽のジャンル別の評価(本文参照)とともに、時間割引率、リスク回避度(本文参照)、メディアの利用度、性別、年齢、居住地域、子供の有無、結婚の有無、個人収入、世帯収入、職業をアンケート調査した。本稿では、音楽のジャンル別の評価とリスク回避度を推計対象とする。
推計方法	各主体における音楽のジャンル別の評価を説明変数、各主体のリスク回避度を被説明変数とした単回帰分析を行う。買うか買わないかの選択に関しては『2. 買わない』を1としたプロビット・モデル、宝くじの価格に関しては最小二乗法を用いる。
集計データによる分析の概要	
アートの(相対的)愛好度を測る指標	平成23年度『社会生活基本調査』表15-2『趣味・娯楽の種類別行動者率』における種類別行動者率:それぞれの1日の生活行動時間のうち趣味・娯楽に費やした時間をどう行動に費やしたか答えさせ、行動種類別に回答者数を全成員で割ることで求める。
リスク回避度に関する指標	平成23年度『国民年金被保険者実態調査』表6-1から被保険者総数と納付者を抽出し、納付利率=納付者数÷被保険者数を計算する。
推計方法	各行動における行動者率を説明変数、年金納付率を被説明変数として(最小二乗法による)単回帰分析を行う。

小さくするために関東地域に限定した。調査方法はインターネットによる回答方式である。

次に、音楽の嗜好の調査にあたって、ポピュラー(邦楽)、ポピュラー(邦楽以外)、クラシック、民族音楽、ブラック・ミュージック、ジャズ、インディーズ・ロック、メジャー・ロック、ラテン音楽、エレクトロニカ・電子音楽、サウンド・ミュージック・映画音楽、アニメ・ゲーム、民謡・演歌、といった音楽ジャンルを考えた。音楽のジャンル分けは複数のジャンルどうしが重なり合っていることなどからクリアに行うことは非常に困難で、それを試みた研究・論文は多数見受けられるが、いずれも定番として確立したものはないようである。そこで、ここではタワーレコードにおける音楽のジャンル分け(Tower Records Online (2016))を参照にして、できるだけ実際の音楽の印象と合うようなジャンル分けを独自に考えた。これらの音楽のジャンルごとに嗜好

に対する評価を以下のような5段階評価を含む6項目(非常に好き、好き、普通、嫌い、非常に嫌い、ジャンルの意味がわからない)で実施した。ジャンルの意味がわからない、についてはその音楽にそもそも関心がないと判断し、ここでは1番低い評価にした(表2)。

このような5段階評価をジャンルごとに行ってもらい、素点をそのまま説明変数として採用した。

また、各主体のリスク回避に対する態度を測るためのテストについて、池田ら(2005, 2006)に従って、次のような宝くじの購買に関するアンケートを2段階で実施した。まず、以下のような宝くじの購買に関する単純な意思決定をさせた(表3)。

ここで、宝くじの賞金の期待値は10,000円であり、呈示されている宝くじの値段20,000円より下回るため、合理的な主体であれば、『2. 買わない』を選択するはずである。

表2. 音楽のジャンルごとの嗜好に対する評価の質問 (Q2)

	1 5	2 4	3 3	4 2	5 1	6 0
	非常に好き	好き	普通	嫌い	非常に嫌い	ジャンルの名称の意味がわからない
1. ポップス(邦楽)(J-POP、歌謡曲など)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. ポップス(邦楽以外)(洋楽、K-POPを含む)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. クラシック	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 民族音楽(フォーク、カントリー、シャンソン、ハワイアン、ワールドなど)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. ブラックミュージック(ブルース、レゲエ、R&B、ソウル、HIPHOPなど)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. ジャズ(ジャズ、クロスオーバー、フュージョンなど)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7. インディーロック(インディーロック、パンクなど)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8. メジャーロック(ハードロック、ロックンロール、ヘヴィメタルなど)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9. ラテン音楽(ルンバ、サンバ、タンゴ、ランバダ、レゲエなど)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10. エレクトロニカ・電子音楽(テクノ、ダンス、クラブ、IDM、ユーロビートなど)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11. サウンドトラック、映画音楽	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12. アニメ、ゲーム	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13. 民謡・演歌	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

表3. 宝くじ購買の意思に関する質問 (Q7)

<p>Q7 確率1%で当たり、当たった場合には1000万円もらえ、確率99%ではずれ、はずれた場合には何ももらえない(0円)宝くじがあります。あなたはこの宝くじが20,000円で売っているとすれば、買いますか。</p> <p><input type="radio"/> 1. 買う</p> <p><input type="radio"/> 2. 買わない</p>
--

この親質問での回答に対して、『1. 買う』の回答にはQ8、『2. 買わない』の回答にはQ9の子質問が用意された。

Q8: この宝くじがいくらまで高くなっても買いますか。ぎりぎりの値段を入力してください。

Q9: この宝くじがいくらまで安くなれば買いますか。ぎりぎりの値段を入力してください。*最低額を1,000円としてお答え下さい。

ここで、宝くじの賞金の期待値は先ほど述べたように10,000円であるため、親質問で呈示されている宝くじに対しては、合理的な家計であるならQ7で『2. 買わない』を選択したうえで、購入金額としてQ9において10,000円を呈示するであろう。しかし、すべての主体が合理的のではなく、実際の結果は回答の金額にばらつきが生じた。例えば賞金の期待値10,000円よりさらに少ない額を呈示する主体も存在した。これは、将来の不確実な事象に対する慎重さに違いが生じたためと考える。より安い価額を呈示した主体はそれだけ宝くじの購入に慎重な態度を示す主体ということができ、よりリスク回避的な主体といえることができる。一方、より高い価額を呈示した主体はリスク愛好的な主体と考えられる。

ここでは、全主体に同一の質問を付しているため、ここで宝くじに対し呈示された額を各主体のリスクに対する回避度をあらわす指標と考えた。この価格と各音楽のジャンルに対する評価点の間の関係を見ることで、音楽のジャンルの嗜好とリスク回避度の間に関連があるかを推定した。今回は、t値やz値を見ることで説明変数(ここでは音楽の評価)にリスクに対する有意な説明力を持つ可能性があるかどうかを中心に考察した。なお、推計に使ったソフトはEViews8 (IHS Global Inc., Irvine, CA, U.S.A.)である。

集計データによる分析

集計データを用いて、日本の各地域におけるアートに対する愛好度とその地域の成員が持つリスクに対する態度の傾向やそれが引き起こす社会現象との関係を見た。ただし、今回は2011(平成23)年度の分析のみを行った。これは、データの引用の『国民年金被保険者実態調査』は毎年発行されているが、『社会生活基本調査』は5年おきの発行のため、分析を行った時点で、発行年度が合った最新年度は2011(平成23)年度だったことによる。議論の先鞭をつけるという意味で今回は単年度の分析にとどめた。

まず、リスクに対する態度あるいはそれが引き起こす社会現象として国民年金の納付率を採用した。Kenkel (1991)やMitchell (1999)などの喫煙と経済行動の指標

(時間選好率やリスク回避度)との関係についての研究も踏まえて、地域全体におけるリスクに対する傾向を調べるために、従来から喫煙率、交通事故数などの代理変数が用いられてきた。リスク回避的な態度が緩むと健康への配慮も緩むため、たばこを吸うことによって快楽を得ようとするため喫煙率が増加するかもしれない。また、リスク回避的な態度が緩むと事故の結果に対する配慮が減少するため、交通事故件数が増加するかもしれない。ここで、それぞれの地域のリスクに対する傾向は一人ひとりの成員のリスクに対する態度の単純な総和ではなく、成員間の外部性の発揮などによって増幅される場合もある。そのため、それぞれの地域のリスクに対する傾向を示す指標として地域全体の傾向をとらえる指標も必要であろう。

このような地域レベルのリスクの回避の傾向を調べる指標として国民年金の納付率を採用した。年金制度については、ライフステージが現役世代から高齢世代に進むにつれ、老後の所得獲得能力の低下や将来を見据えた備えなどについて増大するリスクを各成員間で分散させるために設けられると説明されることが多いが、国民年金の趣旨に賛同し、すすんで年金保険料を納付する主体というのは、保険料を納めなかったり、未納の状態を放置する主体に比して相対的にリスクに対して回避的であると考えたからである。このようなリスク回避的な年金保険料を納付する主体の数の割合は都道府県によりまちまちで、生各都道府県の年金納付率に差が生じていることが知られている(厚生労働省, 2017)。都道府県によってリスク回避に対する傾向が異なるからであると考えられる。すなわち、納付率が多い都道府県は相対的にリスク回避的な傾向の強い都道府県であり、納付率の低い都道府県は相対的にリスク回避的な傾向の弱い都道府県と考えられる。

これを踏まえて、都道府県ごとの国民年金納付率を調べるが、方法として、厚生労働省『国民年金被保険者実態調査』(厚生労働省, 2011)から都道府県別の納付対象者(被保険者)総数と(実際の)納付者数を調べ、その割合(納付率)を算定した。すなわち、同調査では、都道府県別に、国民年金に関する納付対象者総数を調査し、その内訳として、納付者(完納者、一部納付者)、1号期間滞納者、申請全額免除者、学生納付特例者、若年者納付猶予者の人数を調査している。そのうち、納付対象者(被保険者)総数と(実際の)納付者数に注目する。確かに、申請全額免除者、学生納付特例者、若年者納付猶予者の中にはリスクへの意識に関わらず納付できない状況の主体もあり、その対象者の調整も必要となろうが、調整にあたっては他に都道府県別の事情も考慮しなくてはならず、また後者2つに関しては少数であり、今回はまず議論の先鞭をつける趣旨から同方法を選択した。

一方、各都道府県の各アートの愛好度を測る指標として、総務省統計局『社会生活基本調査』(総務省, 2011)の『趣味・娯楽の種類別行動者率』における、『行動種類別の行動者率』を採用した。『社会生活基本調査』は、各成員に対して1日の生活行動時間のうち趣味・娯楽に費やした時間を調査し、さらにその時間で具体的にどのような行動をしたかを行動種類別(同調査では、音楽会によるクラシック音楽鑑賞、劇場上映による映画鑑賞、音楽会によるポピュラー音楽鑑賞、スポーツ観戦、美術鑑賞、演芸・演劇・舞踏鑑賞、CD・テープ・レコードによる音楽鑑賞、DVD・ビデオなどによる映画鑑賞、楽器演奏、邦舞、邦楽、コーラス、洋舞、書道、華道、茶道などの行動があげられる。)に調査した。その個々の成員の回答に関する調査および集計の後、今度はそれぞれの行動種類別に視点を転じ、行動種類ごとに全成員のうち何人がその行動をすると答えたかに注目し、行動をすると答えた成員の人数を全成員で割ることにより、行動種類ごとの行動者率を求めた。なお、本文に挙げた以外にも、囲碁、カラオケ、パチンコといった行動につき行動者率が計算されているが、本文に挙げた行動につき推計するだけでも当初の目的は達成でき、またすべて計測すると徒らに煩雑になるのでここでは推計を捨象した。

行動者率が高い行動ほど余暇時間の使い道としてその都道府県で多くの人に支持を得た行動であり、それぞれの都道府県における興隆度を表すと考えた。年金の納付率と行動者率の2つの変数の間の回帰分析をすることで、その都道府県で流行っているアート等(クラシック音楽など)の興隆度の違いが国民年金の納付率に違いを有意に説明できるかを検証した。ただし、個別データと同様、 t 値や z 値を見ることで説明変数(ここでは時間の過ごし方)にリスクに対する有意な説明力を持つ可能性があるかを中心に考察した。

個別データによる分析結果と考察

1. 宝くじ購入の選択に関する集計

個別データにおいては、調査会社(株)マクロミルに依頼した個票データをもとに、音楽のジャンルの評価にリスク回避の傾向の説明力があるかをみた。すなわち、各主体に対し、宝くじの価格とともに、音楽の各ジャンルに対する嗜好に対する評価を5段階評価で実施した。その評価点数がもつ宝くじの値段に対する説明力をみた(表4)。

まず、Q7において合理的な主体であるなら『2. 買わない』を選択するはずである。しかし驚くべきことに、主体がどの音楽を高く評価するかによって『2. 買わない』を選択することに相違が生じていた。インディーズ・ロック、

表4. 各主体別宝くじの購入に関する集計結果

(すべての主体が対象:被説明変数=買わない=1、買う=0、説明変数=音楽の評価、プロビットモデル)

音楽ジャンル	傾き (z-Statistic)		切片 (z-Statistic)		決定係数
クラシック音楽	0.226	2.285*	0.531	1.914*	0.023
インディーズロック	0.095	1.287	0.799	2.844**	0.013
ポップス(邦楽以外)	0.32	1.95*	6.875	3.457**	0.007
ポップス(邦楽)	0.210	-0.286	0.710	3.03**	0.048
メジャー・ロック	0.060	0.890	8.944	3.682**	0.003
ジャズ	0.057	0.721	0.972	3.794**	0.002
エレクトロニカ	0.133	1.906*	0.656	2.354**	0.016
サウンドトラック・映画	0.183	1.918*	0.640	2.332*	0.016
アニメ・ゲーム	0.149	1.777	0.694	2.615**	0.013
演歌・民謡	-0.009	-0.104	1.181	3.361**	0.0004
民族音楽	0.107	1.264	0.793	2.722**	0.006
ブラックミュージック	0.047	0.645	0.989	3.937**	0.001
ラテン音楽	-0.001	-0.019	1.152	3.771**	0.000002

*, **: $p < 0.05, 0.01$.

メジャー・ロック、ジャズ、演歌・民謡、ラテン音楽、民族音楽、ブラック・ミュージックへの主体の高い評価は『2. 買わない』の主体の選択に対して有意な説明力が認められなかった。とりわけ、メジャー・ロック、ジャズ、演歌・民謡、ラテン音楽、ブラック・ミュージックのz値は低く、演歌・民謡、ラテン音楽に至っては係数がマイナスになっていた。これらの音楽の愛好者のなかに、リスクに対する非常に強い愛好を持っている者が含まれている可能性がある。一方で、クラシック音楽、ポピュラー音楽(邦楽)、ポピュラー音楽(邦楽以外)、アニメ・ゲーム、サウンド・トラック、エレクトロニカに関してはそれに対する高い評価と『2. 買わない』の選択に対して有意な説明力が認められた。これらの音楽への強い愛好と合理的にリスクを避ける動向とは関連があると考えられる。

2. 宝くじの購入価格に関する集計

次に、宝くじの価格についてであるが(表5)、集計の結果、クラシック音楽においては、宝くじの値段に対してマイナスに有意の結果が出た。クラシック音楽の評価が高い主体ほど宝くじに対し低めの価格を呈示していた。低めの価格をつけることはなるべく宝くじを買おうのを避ける傾向が強いという意味で、リスク回避的傾向が強いこと

なる。ただし、決定係数は低い。他にもリスク回避を生む要因があるためと考える。

一方、インディーズ・ロック、ブラック・ミュージック、ラテン音楽、エレクトロニカにおいては、宝くじの値段に対してプラスに有意の結果が出た。これらの音楽に評価が高い主体ほどは宝くじに対し高めの価格を呈示していた。高めの価格というのはなるべくこの宝くじを買おうという傾向が強いという意味で、リスク愛好的傾向が強いことになる。ここでも、決定係数の問題を今後考えなくてはならない。その他、メジャー・ロック、ジャズ、民族音楽に関しては、有意ではないものの、プラスの符号が確認された。ポップス(邦楽以外)、サウンド・トラック・映画、アニメ・ゲーム、演歌・民謡に関しては有意ではないものの、リスク回避的な傾向を示すマイナスの符号が確認された。

これらのことから主体の音楽のジャンルに対する評価の違いによって、リスク回避の度合いが異なると考えられ、また、クラシック音楽愛好者については、他のジャンルの音楽との相対的な意味で、よりリスク回避的な傾向になりうると考えられる。

対象をQ7において、『1. 買う』と答えた、いわば合理的な主体に絞って宝くじにつけた価格と音楽のジャンルの評価との間の関係をみた(表6)。すると、先ほどマイナス

表5. 各主体別宝くじの購入に関する集計結果

(すべての主体が対象:被説明変数=宝くじの価格(リスク愛好度)、説明変数=音楽の評価、OLS)

音楽ジャンル	傾き (t-Statistic)		切片 (t-Statistic)		決定係数
クラシック音楽	-3821.891	1.559	22428.050	3.011**	0.007
インディーズロック	3252.508	1.585	-539.933	-0.067	0.008
ポップス(邦楽以外)	-1204.748	-0.508	14808.18	2.112*	0.0008
ポップス(邦楽)	-3334.961	-1.300	18777.210	3.058**	0.005
メジャー・ロック	1682.038	0.875	5509.187	0.754	0.002
ジャズ	2742.025	1.225	3075.324	0.419	0.004
エレクトロニカ	3552.094	1.587	-446.239	-0.056	0.008
サウンドトラック・映画	-3207.455	-1.285	20682.30	2.73**	0.016
アニメ・ゲーム	-1832.21	-0.813	17226.05	2.305**	0.005
演歌・民謡	-229.063	-0.088	12335.380	1.265	0.00002
民族音楽	2002.340	0.818	4826.087	0.564	0.002
ブラックミュージック	4970.532	2.393**	-5154.460	-0.696	0.018
ラテン音楽	5549.343	2.334*	-7971.564	-0.914	0.017

*, **: $p < 0.05, 0.01$.

表6. 各主体別宝くじの購入に関する集計結果

(『買わない』を選択した主体のみ:被説明変数=宝くじの価格(リスク愛好度)、説明変数=音楽の評価、OLS)

音楽ジャンル	傾き (z-Statistic)		切片 (z-Statistic)		決定係数
クラシック音楽	386.609	2.052*	1565.870	2.688**	0.015
インディーズロック	153.095	0.929	2117.769	3.273**	0.003
ポップス(邦楽以外)	532.132	2.913**	1191.82	2.164*	0.030
ポップス(邦楽)	264.265	1.335	2102.998	4.356**	0.048
メジャー・ロック	82.891	0.536	2392.424	4.058**	0.006
ジャズ	216.965	1.201	2019.126	3.406**	0.001
エレクトロニカ	75.597	0.406	2432.001	3.658**	0.0006
サウンドトラック・映画	326.3048	1.635	1742.42	2.844**	0.016
アニメ・ゲーム	320.882	1.807*	1674.108	2.807**	0.011
演歌・民謡	223.172	1.099	1881.347	2.468**	0.004
民族音楽	148.317	0.728	2190.901	3.069**	0.006
ブラックミュージック	144.726	0.850	2202.463	3.628**	0.001
ラテン音楽	52.074	0.267	2507.296	3.51**	0.0002

*, **: $p < 0.05, 0.01$.

に有意な結果を示したクラシック音楽については、ポップス(邦楽以外)、アニメ・ゲーム、サウンド・トラックなどとともにプラスに有意の結果となった。非合理的な主体も含めた全成員での結果とは逆に、合理的な主体のみの場合、クラシック音楽はリスク愛好的な傾向を促す効果があると考えられる。またこのメカニズムはわかっていないが、非合理的な主体に対してはリスクを抑える一方で、合理的な主体に対しては、むしろリスクを促すといった主体の性質によって異なる効果を生む可能性がある。

3. 都道府県別年金納付率との関連

集計データ(都道府県データ)については、趣味・娯楽の行動としてどの種類の行動が成員に支持されるかの指標である行動者率と年金納付率との相関をみた。表7はその結果である。

音楽会鑑賞(クラシック)は音楽会鑑賞(ポピュラー)、美術鑑賞などともに納付率と有意にプラスの結果になった。また、華道、茶道、書道などの日本に伝統的な稽古ごと

による過ごし方と年金の納付との関係もいずれもプラスに有意であった。音楽会鑑賞(クラシック)がさかんな都道府県は、音楽会鑑賞(ポピュラー)、美術鑑賞さらには日本の伝統的な稽古事が盛んな都道府県とともに年金の納付も順調と考えられる。

一方、スポーツ観戦や美術鑑賞、楽器演奏、美術鑑賞、コーラス、洋舞、CDによる音楽鑑賞、DVDによる映画鑑賞、洋舞、邦舞、邦楽、映画鑑賞に関しては有意ではなかった。特にスポーツ観戦、CDによる音楽鑑賞、DVDによる映画鑑賞、洋舞、邦舞、邦楽に関しては符号がマイナスであった。CDによる音楽鑑賞については、生演奏会によるいわばライブ演奏によるものが有意にプラスであるにもかかわらず録音を通して鑑賞する場合は反対の符号になった。また、DVDによる映画鑑賞についても、映画館で他の客と一緒に鑑賞する場合はプラスにもかかわらず、自宅等で鑑賞する場合にはマイナスであった。

ここでも趣味や娯楽の時間に費やす行動の種類と年金納付との間の関係には違いがみられ、また、クラシック音楽の興隆は他の行動との相対的な意味でリスクの低減に関わる

表7. 都道府県別年金の支払いに関する推計結果

(被説明変数=年金支払い率、説明変数=それぞれの行動種類における行動者率、OLS)

音楽ジャンル	傾き (z-Statistic)		切片 (z-Statistic)		決定係数
音楽会鑑賞(クラシック音楽)	1.250	1.995*	39.897	8.42**	0.085
映画鑑賞	0.140	0.806	45.056	8.147**	0.014
音楽会鑑賞(ポピュラー音楽)	1.128	2.248*	36.716	6.397**	0.100
スポーツ観戦	-0.116	-0.345	51.470	8.606**	0.002
美術鑑賞	0.516	1.624	41.731	8.611**	0.050
CD・テープによる音楽鑑賞	0.357	0.035	49.037	5.018**	0.000039
邦舞	-1.556	-0.884	52.234	15.821**	0.017
楽器演奏	0.239	0.306	47.323	6.767**	0.002
邦楽	-2.682	-1.155	53.949	13.433**	0.002
コーラス	1.361	0.880	46.083	11.681**	0.016
洋舞	-1.060	-0.457	50.935	14.97**	0.004
演芸・演劇・舞踏	0.268	0.580	46.725	9.754**	0.007
書道	3.170	1.953*	36.590	5.503**	0.078
華道	4.406	2.634**	40.089	10.926**	0.133
茶道	6.256	3.315**	39.969	13.355**	0.196
DVDによる映画鑑賞	-0.201	-0.686	57.090	5.108**	0.010

*, **: $p < 0.05, 0.01$.

年金納付状況との間に有意にプラスの説明力があると考えられる。

ただし、クラシック音楽に親しむきっかけを持つ主体は幼少期から比較的経済的にも文化的にも恵まれた環境で育った場合が多く、アートがリスクに対する態度を緩和させるというより、クラシック音楽に親しむほど環境に恵まれ、リスクに無縁な主体が当然に年金を支払っている、といった逆の因果関係になっていることも考えられる。この点についてはさらなる分析が必要だが、比較的広い所得層から愛好されると考えられるポピュラー(邦楽)の愛好者もリスク回避的の傾向を持つことから、アートによるリスクに対する緩和という研究の方向を進めることは無意味ではないと考えられる。

このような因果関係についての問題は、個別分析においてクラシック音楽を好む傾向とリスク回避的な傾向との間に有意な結果が出たことについてもいえ、クラシック音楽を好む主体はもともと判断が的確で、また極端なリスクを避ける傾向があることが生んだ結果なのかもしれない。しかし、そのなか合理的な主体に絞った場合、生まれたリスクを促しうるといふ興味深い結果は、クラシック音楽が愛好者のもとの性質からはすぐには推察できない結果であり、本研究の方向性が無意味ではないことを逆説的に示すと考えられる。

結論

現代日本において問題になっている「リスクに無頓着な態度」がアート、特にクラシック音楽に触れることによって緩和されるかという問題に関して、経済実験(アンケート調査)によるミクロレベルの分析と都道府県ごとの年金納付というマクロレベルの分析により、考察した。その結果、音楽のジャンルへの嗜好の違いがあり、また余暇時間にとる行動の違いによって、主体間にリスク回避的な傾向に差が生じることがわかった。併せて、クラシック音楽については、それに対して強い嗜好を持つ主体はリスクに回避的な傾向を持ち、また、クラシック音楽が興隆している都道府県では年金の支払いがスムーズにしていることがわかった。すなわち、ミクロレベル、マクロレベルともにある種類のアートとリスク回避的な傾向とは有意に結びつくことが確認された。アートに触れることによって、「リスク回避」の傾向に影響が及ぼされること、特にクラシック音楽に触れた場合には、リスク回避的な傾向が強まる可能性があると考え、リスクに無頓着な現代社会において、もっとアートが興隆した状態が実現することを提案する次第である。

文献

- 玄田有史(2001): 仕事のなかの曖昧な不安 一揺れる若年の現在. 中央公論社, 東京.
- 星野悦子(2015): 音大生の日常音楽聴取行動と性格—背景音楽の利用、選好音楽ジャンルとBig Five次元の関連性—. 日本心理学会第79回大会発表論. <http://www.myschedule.jp/jpa2015/img/figure/90838.pdf#search=%27%E9%9F%B3%E5%A4%A7%E7%94%9F%E3%81%AE%E6%97%A5%E5%B8%B8%E9%9F%B3%E6%A5%BD%E8%81%B4%E5%8F%96%E8%A1%8C%E5%8B%95%E3%81%A8%E6%80%A7%E6%A0%BC%27> (2017.5.1 検索)
- 池田新介・大竹文雄・筒井義郎(2005): 時間割引率: 経済実験とアンケートによる分析. 大阪大学 Discussion Paper **638**.
- Kenkel, D. (1991): Health behavior, health knowledge and schooling. *J. Political. Eco.* **26**, 313-325.
- 駒村庸平・浦田房良・渋谷孝人(2000): 年金と家計の経済分析. 東洋経済新報社, 東京.
- 厚生労働省(2011): 平成23年度国民年金被保険者実態調査. 厚生労働省, 東京. <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/140-15.html> (2016年3月1日検索)
- 厚生労働省(2017): 平成29年国民年金保険料の納付率について(月次). <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/nenkin/nenkin/toukei/nouhurutu.html> (2017.5.1 検索)
- Claude, L.-S. (1976): *La Pensée Pauvage*, Plon (大橋保夫訳: 野生の思考. みすず書房, 東京).
- Lindstrom, M. (2005): *Brand Sense: Sensory Secrets behind the Stuff We Buy*. Simon and Schuster Co., New York (ルディー和子訳: 五感刺激のブランド戦略—消費者の理性的判断を超えた感情的な絆の力. ダイアモンド社, 東京).
- Mitchell, S.H. (1999): Measuring of impulsivity in cigarette smokers and non-smokers. *Psychopharmacology* **144**, 455-464.
- 総務省統計局(2011): 平成23年度国社会生活基本調査. <http://www.stat.go.jp/data/shakai/2011/> (2016.3.1 検索)
- Tower Records Online (2016): Online Shop総合音楽ジャンル別. <http://tower.jp/music> (2016.3.1 検索)
- 土村宜明・保原伸弘(2016): 家計の出産行動の選択と近視眼的思考. *生命保険論集* **631**, 27-49.
- 池田新介・筒井義郎(2006): アンケート調査と経済実験による危険回避度実験と時間割引率の解明. *証券アナリストジャーナル* **44**, 70-81.

Does Classical Music Have an Effect on Modifying an Attitude of
Subject against Economic Risk and Promoting him to Pay More to Pension?
— The Analysis about Correlation between the Preference about
the Music and the Degree of Economic Risk Aversion
through Economic Experiment and Aggregate Data —

Nobuhiro HOBARA

School of Social Welfare, Tokyo University of Social Welfare (Isesaki Campus),
2020-1 San'o-cho, Isesaki-city, Gunma 372-0831, Japan

Abstract : In Japan, there is strong tendency that myopic thought or risk-lover attitude is broadly spread in individual or in society and each subject does not have a distinct hope toward future. This tendency gives a social problem such as non-payment for pension. Against such a tendency, this study considers that arts have an important roll in tranquilizing risk-lover tendency. As the first, the present author noticed also about the genres of art or music and estimate correlation between the attitude against economic risk and the preference for music. As a result, it was found out that the music-genres which risk-lover subject like was significantly different from those which risk-aver subject like. The subject who liked classical music tended to be risk-aversion more significantly than those who like other music-genres (rock, jazz, and so on). Next, by using aggregate data about each prefecture, the author estimated also correlation between how the subject in each prefecture spent leisure time and the rate of payment for pension and found out that the rate of payment for pension was higher in prefecture in which many subjects like classical-music. Therefore it can be concluded that we should pay attention to art as way to tranquilize risk.

(Reprint request should be sent to Nobuhiro Hobara)

Key words : Risk-aversion, Risk premium, Non-payment for pension, Behavior economics